

こういう子供には 経営を任せない11の原則

11のチェックリストを使って判断すれば、失敗が防げる

事業承継についての関心が高まっていることで、事業承継に関する本は何冊も出版されているばかりか、講演会もあちこちで開かれていました。しかしこれらの内容をみると、ほとんどが**相続税の説明**になっています。相続税対策も必要ですが、子供を後継者にする場合、**もっと大事なもの**があります。これを確かめないと子供に経営を任せると、創業社長が死亡後、七回忌の法事も迎えないうちに倒産することになりかねません。

私が起業して2年ほどしたとき、前々から知り合いだったA社長と偶然出会いました。A社長の顔色が悪く、ひどくやせていたので事情を聞いたら「3年前に病気で倒れ、病院からの帰り」ということでした。会社の経営はサラリーマンをしていて、40歳になる子供が後を継ぎたいというので、子供を社長にしたそうです。業種は建築材料の販売で、従業員は10人。年商は2億5000万円でした。

A氏によると、社長になった初めは真面目に仕事をしていましたが、1年後には様子が変わったというのです。まず高級車を買いました。次は朝の出社が遅くなり、交際費は1年に500万円も使っているというのです。典型的な放漫経営です。

A氏は、この1年後に亡くなりました。父親が死亡したあと後継社長の放漫経営がエスカレートし、A氏の3回忌の法事を迎える前に倒産しました。この事例は特別に思われるでしょうが、創業社長死亡後七回忌の法事をする前に、会社が倒産した例はいくつもあります。

こうなるのを防ぐのには「**後継者**」にと考えている子供に、経営者としての能力があるかどうか、**事前の判断**が特別重要になります。しかしこれはとても難しくなりますが、これに役立つのが、このCD教材による**11のチェックリスト**になります。もし**3項目以上**が該当するなら、経営者として不適格者になるので、外の方法を考えるべきでしょう。

こういう子供には経営を任せない

定価 **9,900** 円(税込)

CD-R 1巻 1時間15分。テキスト付

※こうすれば経営に失敗する12の原則をお買い上げの方は**2,000円引**に



竹田陽一 経歴

1938年生。久留米市出身。福岡大学経済学部卒。建材メーカーで経理と営業を担当後、28歳のとき企業調査会社に転職。中小企業の信用調査と倒産会社の取材を担当。35歳のときにランチェスター法則と出会い、以来同法則を経営全体に応用、研究する。44歳のときにランチェスター経営を創業。講演は、4300回に。ランチェスター先生の墓参は7回に。

お申し込みは、FAXかメールで。 メールアドレス customer@lanchest.co.jp

ご住所	〒			業種	
会社名	役職	ご氏名	従業員	人	様
TEL	FAX				

こういう子供には